

28年目の1.17 メモリアル集会

1.17。毎年この日を迎えると28年前の当時の記憶がよみがえってきます。6434人が亡くなられた阪神淡路大震災から28年目の1月17日。本校でもオンラインでメモリアル集会を行いました。当時のことを知らない子どもたち、また若い先生方に当時の様子を「語り継ぐ」のも私たち震災当時を生き残った者の役目と思っています。



しんぞうがとまりそうだった

ドーン ガタガタ
トラックが つっこんだと思った
ブランコに のって
ふりまわされている みたかった

家の中は ぐちゃぐちゃになった
タンスもテレビも ぜんぶたおれた
しょっきは ガシヤツとこわれてしまった

外へ出たら
家は かたむいて たおれそうだった
もう すめないのかと思って
しんぞうが ぶるぶる ふるえた

そこいらじゅうが めちゃくちゃだった



いろいろな気持ち

かなしいことが
いっぱいあった
うれしいことが
いっぱいあった

地しんがあつて
はじめて知った
いろいろな気持ち

せっかくたすかった
わたしのいのち
わたしはちゃんと
生きていきたい



その中で震災の様子と左に記載した当時の子どもたちが書いた2つの詩を紹介しました。

震災を経験した子どもたちが地震のことを話したり、思い出したりする機会を持つことは心のケアの観点から控えた方がよいと言われていました。上の詩も少し時間が経ってから書くことができた詩だったと記憶しています。また、下の詩の「うれしいことがいっぱいあった」とは、



多くの方々がボランティアとして神戸や淡路島に行き、被災された方々の支援を行ったことであることを伝えました。今週は震災に関連した授業を各学年でも行うこととしています。



あわせて、地震による避難訓練を実施しました。地震により、中央階段が使用できないことに加え、放送設備も使用不能になったことから、各階の先生とはトランシーバーを活用して連絡を取り合い、非常階段を利用しての避難としました。運動場に集

合してから「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の振り返りをしたのですが、『しゃべってはいけません』と言っても、当然必要なことは声を掛け合うべきです。そこで、必要なしゃべりがなかったかと子どもたちに尋ねました。高学年の子が「ぎぶとんがないならフードをかぶったら」「火事になった時を考えて窓閉めてからにげよか」「(遅れた子に) こっちやで」など、仲間のことを思って声をかけてくれていたことがわかり、嬉しい気持ちになりました。

避難訓練は年間3回です。それぞれ自分や友だちの避難の様子を振り返ることが小学校生活6年間、18回の訓練での成長につながると考えています。

今日の新聞にも震災の話題が載っていました。ご家庭でも、話題に取り上げていただき、防災の意識を高める日にしていただけだと思います。